



中国古代社会の近代 (2千数百年の眠りから醒めて)

3月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2021年3月8日(月)

2千数百年もの昔、中国では、**西欧の近代**が既に存在していたと言えるのではないだろうか。

近代とは、西欧封建社会の後を受けた**資本主義社会**である。

少し遅れて、日本では、明治維新から太平洋戦争の終結までの、**現代**へと続く直前の時代と言える。

中国の時代で言えば、**春秋の末から戦国、秦漢の時代**である。秦や漢という当時の西欧をはるかに超える強力な国家が出現し、思想も**諸子百家**と言われる活気を呈した。

鉄という生産性の高い道具の活用が、古代中国の社会を変動させ、拡大、深化させたことにより、形容しがたいほどの**社会の発展が実現**された。**鉄器の普及**が、灌漑土木を盛んにし、国家を増やし、商品生産を盛んにし、**人間の欲望と競争心**と好奇心を極限にまで高めた。

思想の面では**百家**と言われる100種類とも言われる革新的な思想、儒家、陰陽家、墨家、法家、刑名家、道家、縦横家などの出現である。これは18世紀のヨーロッパ文明の興隆に対比できる変動である。その全貌は、**司馬遷が史記**において明らかにしている。

世界の中心となった**中国の社会**には自由の気があふれ、最下層の土民も皇帝へと登りつめる**弾力性**もあった。**漢の武帝**という中国史上最大最強の皇帝が**シルクロード**を拓き、西域諸国と親交を結び、世界的な交易を成功させた。

それは、現在の中国がかかげる**21世紀シルクロード経済ベルトと海洋シルクロード**という世界と交易と資金の往来を図る**一帯一路**と同じである。

その後、中国には同辺民族の流入、鉄による繁栄が終り、成功した文明は終りを告げる。過度の鉄の生産により、樹木が極度に少なくなり、大陸は一望の荒土となり火力の活用による繁栄が終る。

文明は衰退し、**アジア的停滞**に入り、古代から近代までの歴史的進歩のない停滞の時代が続いた。しかし、その**眠りから醒める時代**が来たようだ。

世界史的には、過去500年間に西欧諸民族がその活動を世界的に拡大させてきたが、トインビーは、人類史の次の段階では、西欧がその**主導権を東アジア**に譲り渡すことになると予測している。